

館平遺跡空撮

令和8年度 八戸市遺跡調査報告会 発表資料集

目　次

■法霊林（ほうりょうばやし）遺跡（根城地区／奈良時代）・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館　主事兼学芸員　**宇庭　瑞穂**

■細越（ほそごえ）遺跡（松館地区／平安時代）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P6

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館　主事兼学芸員　**山田　貴博**

■館平（たてひら）遺跡（大館地区／平安時代）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館　主事兼学芸員　**山田　貴博**

【特別報告】

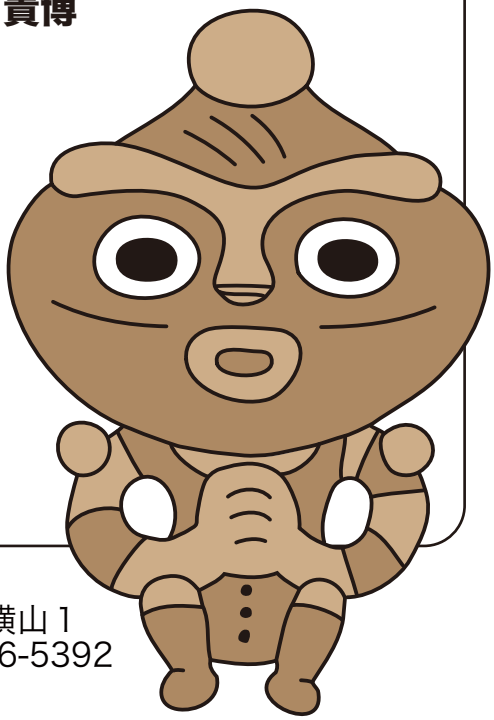
■櫛引（くしひき）八幡宮本殿下の遺構調査・・・・・・P10

八戸市教育委員会　社会教育課　**出町　拓也** 氏

◎日　時：2026 年 11 月 14 日（土）　午後 1 時～

◎会　場：是川縄文館　1 階　体験交流室

◎主　催：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館



八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館

〒031-0023　青森県八戸市是川字横山 1
TEL 0178-38-9511／FAX 0178-96-5392

報告遺跡

令和８年度発掘調査遺跡一覧

※11月13日現在

	No.	遺跡名	調査原因	調査面積（㎡）	調査期間	時代／種類
試掘調査	1	塩入遺跡①	個人住宅建築	8㎡	4月6日	縄文（後）・平安／散布地
	2	市子林遺跡①	個人住宅建築	10.66㎡	4月13・14日	縄文（早・前・中・後・晩）・古墳・奈良・平安・中世・近世／集落跡
	3	館平遺跡①	認定こども園移転建築	440㎡	4月3～10日	縄文（早・中・後）・平安・中世／集落跡・城館跡
	4	市川長者久保遺跡①	系統蓄電所設置	50㎡	4月23・24日	縄文（前・後）・奈良・平安／散布地
	5	細越遺跡①	個人住宅建築	8㎡	4月27日・5月7日	奈良・平安／散布地
	6	重地遺跡①	個人住宅建築	7㎡	6月1～2日	縄文／集落跡
	7	咽平遺跡①	道路改良工事	20㎡	6月4日	縄文（後）・奈良・平安／散布地
	8	熊野堂遺跡①	宅地分譲	18㎡	7月15日	縄文・奈良・平安／集落跡
	9	熊野堂遺跡②	個人住宅建築	12㎡	7月16日	縄文・奈良・平安／集落跡
	10	山内遺跡①	個人住宅建築	8㎡	7月9日	縄文（前・中・後）・平安／散布地
	11	法霊林遺跡①	個人住宅建築	16.75㎡	7月28日	縄文・奈良・平安／集落跡
	12	酒美平遺跡①	個人住宅建築	14㎡	8月5日	縄文（早・前・中・後）・飛鳥・奈良・平安／集落跡
	13	雷遺跡①	個人住宅建築	12㎡	8月3～4日	縄文（中）・平安／散布地
	14	古玄中寺遺跡隣接地①	個人住宅建築	15㎡	9月4日	縄文（後）／散布地
	15	八戸城跡①	個人住宅建築	9㎡	9月8日	縄文（早）・弥生・古墳・近世・近代／城館跡
	16	熊野堂遺跡③	個人住宅建築	4㎡	9月24日	縄文・奈良・平安／集落跡
	17	館平遺跡②	個人住宅建築	8㎡	9月29日	縄文（早・中・後）・平安・中世／集落跡・城館跡
	18	松長根遺跡①	個人住宅	12㎡	10月22日	縄文（後）／散布地
	19	松長根遺跡②	L型擁壁設置	1㎡	10月22日	縄文（後）／散布地
	20	雷遺跡②	個人住宅建築	10㎡	10月23日	縄文（中）・平安／散布地
	21	田面木遺跡①	樹木植樹	170㎡	11月5～7日	縄文（早・前・中・後・晩）・弥生・奈良・平安／集落跡
	22	田面木遺跡②	個人住宅建築	12㎡	11月12日	縄文（早・前・中・後・晩）・弥生・奈良・平安／集落跡
本発掘調査	**23**	**細越遺跡第3地点**	**個人住宅建築**	**74㎡**	**5月25日～6月19日**	**奈良・平安／散布地**
	24	**法霊林遺跡第9地点**	**個人住宅建築**	**32㎡**	**5月15～19日**	**縄文・奈良・平安／集落跡**
	25	**館平遺跡第32地点**	**認定こども園移転建築**	**1,950㎡**	**8月1日～10月27日**	**縄文（早・中・後）・平安・中世／集落跡・城館跡**
	26	**法霊林遺跡第11地点**	**個人住宅建築**	**107㎡**	**8月17～28日**	**縄文・奈良・平安／集落跡**



令和８年度発掘調査遺跡位置図

法霊林遺跡

- 馬淵川南岸に広がる古代の集落 -

1. 遺跡の概要

本遺跡は、馬淵川南岸に面する、標高 10 ～ 23 mの段丘上に立地しています。馬淵川南岸には、根城跡や熊野堂遺跡、八戸城跡、田面木遺跡、八幡遺跡、櫛引遺跡といった飛鳥時代から平安時代の集落遺跡が多数存在しており、本遺跡もその一つです。

これまでに、八戸市教育委員会による 10 地点、青森県教育委員会による 1 地点の発掘調査が行われ､7 世紀後半から 9 世紀頃（飛鳥時代から平安時代）の集落跡だったことがわかっています。今年度の調査では、第 9 地点と第 11 地点の合計 139 ㎡の発掘調査を行いました。

2. 検出遺構

今回の調査では､飛鳥～奈良時代(7 世紀後半～ 8 世紀前半) の竪穴建物跡 3 棟がみつかりました。

SI9 竪穴建物跡は、令和 3 年度にも一部の発掘調査を行っており、今年度の調査では北東壁を調査しました。建物の大きさは東西 3.3m ×南北 3.7m の隅丸方形で、北西側の壁中央にカマドがみつかりました。カマドの焚口の周辺が少し窪んでいるのが特徴的です。

SI12 竪穴建物跡は、検出した範囲で東西 6.5m ×南北 5.0m と比較的大型の建物です。建物の半分ほどしか調査できず、カマドはみつかりませんでした。掘方の下から古い柱穴がいくつか確認されたことから、柱の建て替え等が行われた可能性があります。

SI13 竪穴建物跡は、東西 5.3m ×南北 4.6m の隅丸方形で、北側の壁中央にカマドがみつかりました。カマドの焚口周辺が少し窪んでおり、やや崩れてはいますが、カマドの構造がわかる良好な状態で残っており、芯材に土師器甕の破片や石を埋め込んだ後に粘土を貼り付け、カマドを作ったことがわかりました。

3. 出土遺物

土師器（坏・甕・甑)、鉄製品（鉄鏃・刀子など)、石器（砥石・軽石製品)、縄文土器片（早期）などが出土しました。

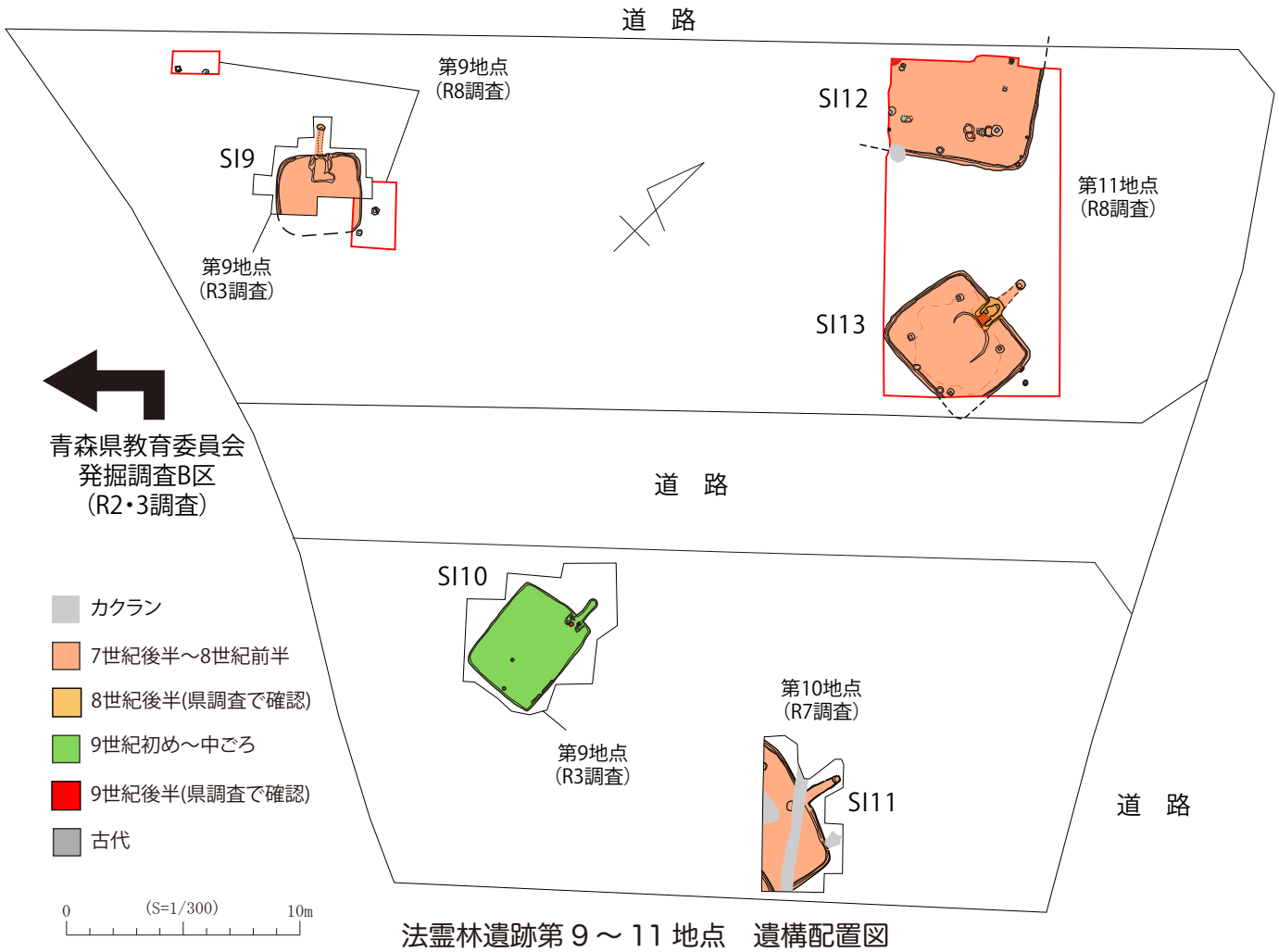
SI13 竪穴建物跡からは土師器が多数出土しており、カマドから出土したものを含め、熱を受けて赤く変色したり、表面が弾け飛んだものが多いのが特徴です。カマドの焚口周辺には完形の甕が倒れており、それを取り上げると、下から小型の甕 2 点がひっくり返されたの状態でみつかりました。煮炊きする際に甕を支える支脚として、使わなくなった甕を転用したと考えられます。

4. まとめ

今回の調査地点は馬淵川南岸の段丘の上段側に位置しており、出土遺物の特徴から、今回調査した竪穴建物跡 3 棟はいずれも飛鳥～奈良時代と考えられます。

第 9・11 地点の周辺では過去に 2 度発掘調査を行っており、SI11・13 竪穴建物跡はどちらもカマドが北壁に設置され、かつ出土遺物の特徴が似ていることから、同時期に建っていたと推測されます。SI10 竪穴建物跡だけが平安時代（9 世紀前半）のものですが、すぐそばの青森県教育委員会による調査で､同じく平安時代の竪穴建物跡が 5 棟みつかっていることから､同じ時期に建っていたのかもしれません。

（宇庭　瑞穂）



法霊林遺跡第９～11地点　遺構配置図



法霊林遺跡　古代の遺構分布図



SI13 竪穴建物跡（南から）　完掘



SI13 竪穴建物跡カマド使用状況模式図

細越遺跡

- 新井田川流域の平安時代集落 -

1. 遺跡の概要

本遺跡は、八戸市中心部から南東へ約 5 km、新井田川支流の松館川に面した標高約 10 ～ 30m の段丘先端に立地しています。八戸市教育委員会による 2 地点の調査が行われており、古代～中近世の遺構・遺物が確認されています。第 2 地点の調査では、平安時代の竪穴建物跡が密集してみつかっており、集落があったことがわかりました。調査期間は令和 8 年 5 月 25 日～ 6 月 19 日まで、調査面積は約 74 ㎡です。

2. 検出遺構

竪穴建物跡が 5 棟、土坑が 15 基みつかりました。竪穴建物跡は、平安時代と判断できるものは SI11 竪穴建物跡の 1 棟のみで、出土した土器の特徴から 9 世紀後半から 10 世紀前半頃と考えられます。それ以外は、遺構の重複関係などから SI11 竪穴建物跡よりも新しい平安時代以降のものと考えられます。土坑は密集してみつかり、明確な時期を推測できる遺物は少ないですが、平安時代中頃と考えられます。

3. 出土遺物

今回の発掘調査では、縄文土器、土師器（坏・甕・把手付土器）、須恵器（坏・甕）、土製品（羽口）、石器、石製品、鉄製品（刀子など）、鍛冶関連遺物（鍛造剥片・鉄滓）、動物遺存体（ウマの骨、鹿角製品）などが出土しました。

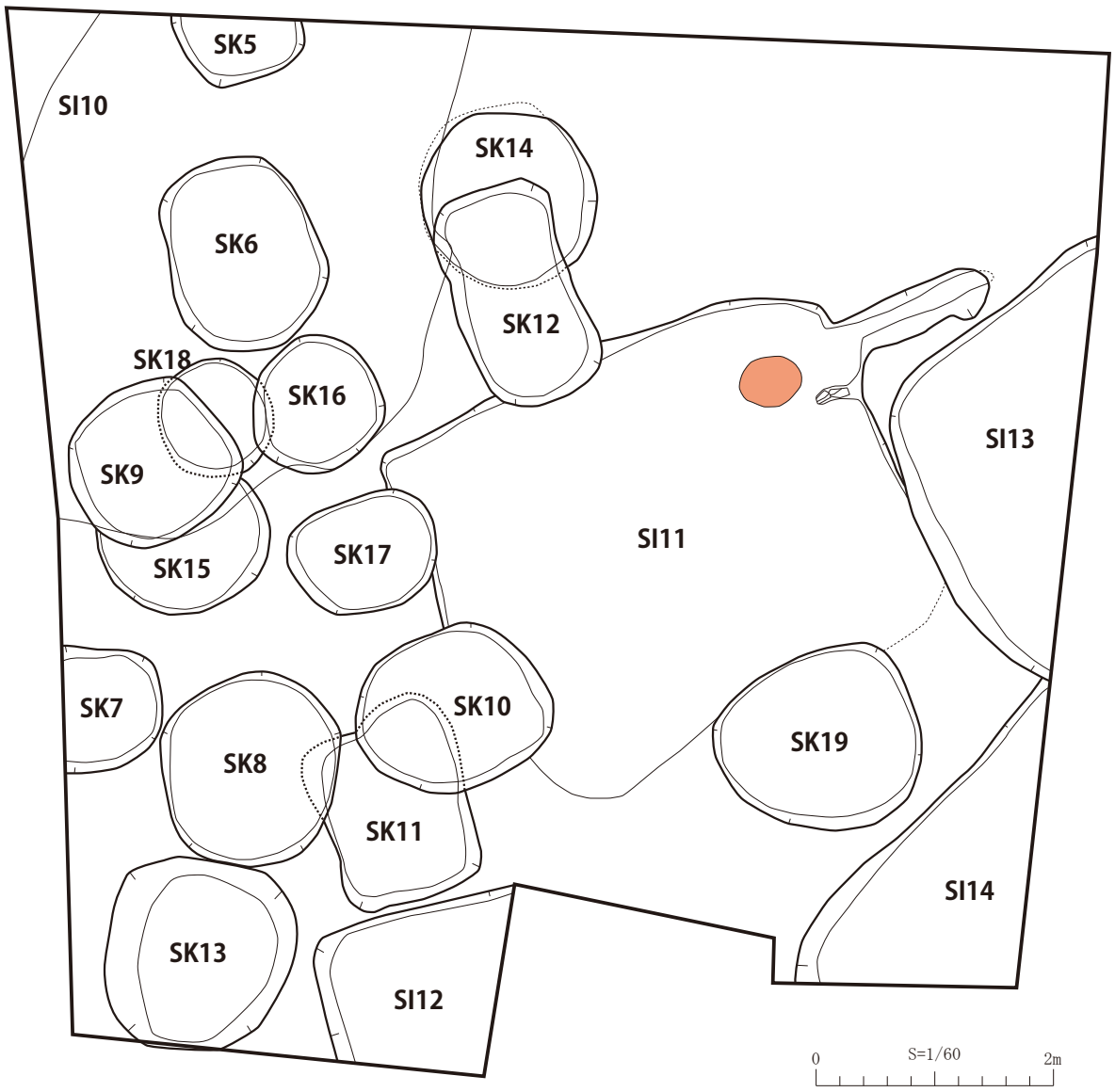
SI11 竪穴建物跡からは、漢字の「石」のように見える墨書きがされた土師器坏がみつかりました。この土器には、内面や口縁部に炭化物が付着しており、建物内で明かりをとるための灯明皿のように使用されたと考えられます。

把手付土器は遺構からの出土ではありませんが、八戸では出土例が少なく、馬淵川流域の林ノ前遺跡や大仏遺跡でもみつかっており、使用される年代としては 10 世紀末～ 11 世紀頃と考えられます。

4. まとめ

今回の調査では、9 世紀後半～ 10 世紀前半頃の竪穴建物跡がみつかり、これまでの調査でみつかっている平安時代の集落と一連のものと考えられます。15 基確認された土坑は、貯蔵施設と考えられ、重複するものが多いことから、人びとがこの場所にこだわって土坑をつくり続けていたことがうかがえます。また、把手付土器が出土したことから、11 世紀頃まで人びとが生活していた可能性が示唆されます。これまでの調査では、9 世紀中頃の土器が出土しており、今回の調査成果と合わせて、平安時代の中でも 9 世紀中頃～ 11 世紀頃という長期間に渡って人びとが暮らしていたと推測されます。さらに、文字の表記とみられる土師器坏が出土したことから、当時の人びとが本来の意味を理解していたかは不明ですが、集落の中で特別な意味合いがあったのかもしれません。

（山田　貴博）



SI=竪穴建物跡　SK=土坑

細越遺跡第３地点遺構配置図



調査区全景（南から）



土器出土状況（東から）

館平遺跡

- 縄文時代の狩猟場と平安時代の集落 -

1. 遺跡の概要

本遺跡は、八戸市中心部から南東へ約 3.5km に位置し、新井田川とその支流の松館川との合流点右岸にある標高約 6 ～ 37m の段丘上に立地しています。これまで八戸市教育委員会による 31 地点の調査、慶應義塾大学による調査、青森県埋蔵文化財調査センターによる 4 地点の調査が行われています。縄文時代早期から近世までの遺構・遺物がみつかっている複合遺跡ですが、特に、縄文時代早期中葉の白浜式土器の標識遺跡や、根城南部氏一族の新田氏の居城である新田城跡として知られています。調査期間は令和 8 年 8 月 3 日～ 10 月 27 日、調査面積は約 1,950 ㎡です。

2. 検出遺構

今回の発掘調査では、縄文時代と考えられる土坑が 6 基、溝状土坑が 2 基、平安時代の竪穴建物跡が 9 棟、古代以降の土坑が 2 基、溝跡が 1 条、時期不明の土坑が 6 基みつかりました。

縄文時代の土坑は、落とし穴と考えられるものが 5 基みつかりました（SK38・43・47・48・49)。落とし穴は一定の間隔でみつかり、平面形が円形で、底面中央に小さい穴が 1､2 個ありました。これは落ちた獲物が刺さる先の尖った杭を立てた跡と考えられます。

平安時代の竪穴建物跡の時期は、出土した土器などから全て 9 世紀後半～ 10 世紀前半とみられ、一辺が 3 ～ 4m のものが多い中、SI40 竪穴建物跡は一辺が約 9.5m あり、特に大きな竪穴建物です。また、竪穴建物のカマドの下から古い時期のカマドの煙道がみつかりました。新旧のカマドの煙道は、同じ方向を向いていることから、古い建物を拡張し、大きな建物につくり替えたと考えられます。

3. 出土遺物

縄文土器、土師器（坏・甕)、須恵器（坏・甕)、土製品、石器、石製品、鉄製品（鉄鏃・刀子・馬具など)、動物遺存体（ウマの骨・魚骨など）がみつかりました。

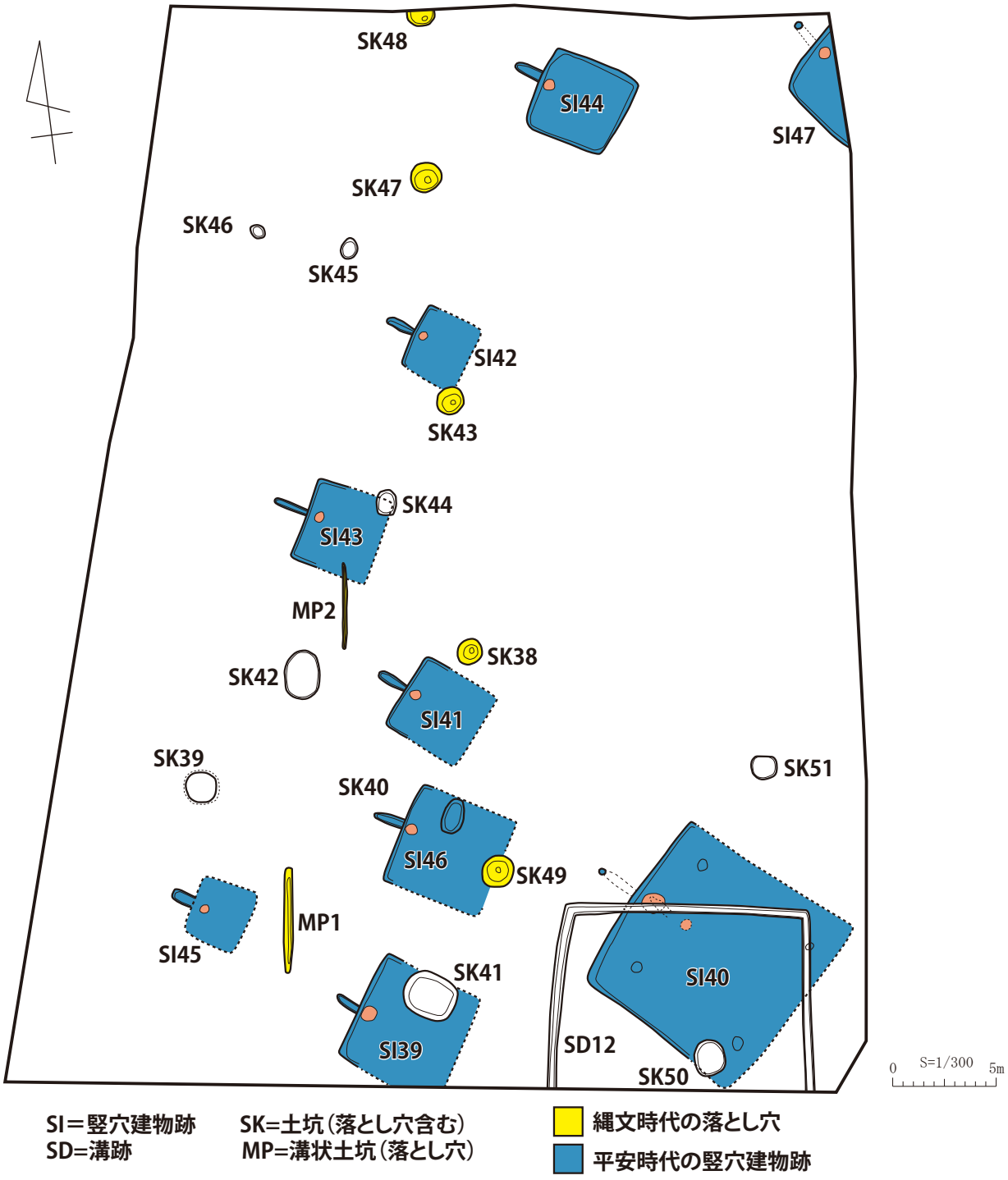
SI40 竪穴建物跡の柱穴の一つでは、埋土中から須恵器甕と動物の骨が出土しました。埋土がやわらかいため、柱を抜き取った後に途中まで埋め戻し、須恵器や動物の骨を入れて埋めたと推測されます。

SI46 竪穴建物跡では、カマドの煙道から須恵器坏とウマの椎骨が重なって出土しました。土器と骨の下には土や灰が堆積しており、この竪穴建物を廃棄する際に納めたものかもしれません。

4. まとめ

今回の調査で、この場所が、縄文時代には落とし穴を仕掛けてシカやイノシシなどの獲物を捕える狩猟場、平安時代には、人びとが日々生活する集落であったことがわかりました。特に、平安時代には、大型の竪穴建物が存在しており、集落の中でも特別な人が住んでいた場所だったのかもしれません。また、柱穴やカマドの煙道に埋められた須恵器や骨など、当時の人びとが建物を廃棄する際の行為を示す可能性がある資料がみつかりました。

（山田　貴博）



館平遺跡第 32 地点遺構配置図



縄文時代の落とし穴（南から）



カマド煙道遺物出土状況（南東から）

【特別報告】櫛引八幡宮本殿下の遺構調査

- 本殿の下にあった遺構とは、一体……！？ -

1. 櫛引八幡宮の概要

櫛引八幡宮は八戸市大字八幡字八幡丁に位置し、社伝によると南部家初代の南部光行が糠部郡に入部後、滝沢村（現：十和田市）に仮宮をし、貞応元（1222）年に現在の社地に遷座したとされています。

江戸時代には、盛岡藩の総鎮守として藩内最大の寺社領を有し、八戸藩成立後も櫛引八幡宮を含む八幡村（現：大字八幡）は盛岡藩領の飛地として盛岡藩の管理下に置かれました。

現在の本殿は江戸時代の慶安元（1648）年に建てられたものです。本殿は、三間社流造で、各部を彫刻と極彩色で飾った華やかな意匠をもっています。この本殿は、昭和 58 年の新拝殿建立に伴い、当初の位置から北側に移され、高さ約 90 ㎝の基壇が設けられました。

本殿を含む計 5 棟（旧拝殿・末社神明宮・末社春日社、・南門）は同時期に建てられたもので、同時代の建物が群として残っていることが貴重であるとして、平成 5 年 4 月 20 日に国の重要文化財に指定されました。

しかしながら、末社の 2 棟以外は江戸時代以来本格的な修理が行われておらず、建物の老朽化が進行し、部材の腐朽や彩色の退色などが著しい状態であることから、宗教法人櫛引八幡宮が事業主体となり、令和 6 年度から建造物の保存修理事業を実施しています。

本殿の基礎工事のため基壇内部の充填材を取り除いたところ､石が並ぶ遺構（石列）が見つかったことから、この構造を解明するため石列に直交するトレンチを設定し、周辺を調査しました。

調査期間は令和 8 年 8 月 25 日～ 27 日、調査面積は約 5.6 ㎡です。

2. 検出遺構と出土遺物

今回の調査では石列のほか、雨落ち痕・造成跡・小穴が見つかりました。

石列は礫岩で構成され、調査区外まで直線状に延びていることがわかりました。また、石列の南側（拝殿側）には玉石状の礫石を含む層が確認されたことから、石列南側には玉石を敷設した雨落ちがあったと考えられ、石列は雨落ちを区画する石であったことがわかりました。

造成跡は石列の南北から見つかりました。石列南側では、雨落ち痕の下から見つかり、造成跡からは寛永通宝（古寛永通宝）が見つかっています。そのため、近世～雨落ち施工前に造成が行われたと考えられます。石列の北側からは、 3 回の造成跡と石列の据付け痕が見つかりました。各造成の時期は不明ですが、一番新しい造成跡には、基壇の充填材と同様の角礫が多く含まれることから、基壇設置時に掘削された跡である可能性があります。

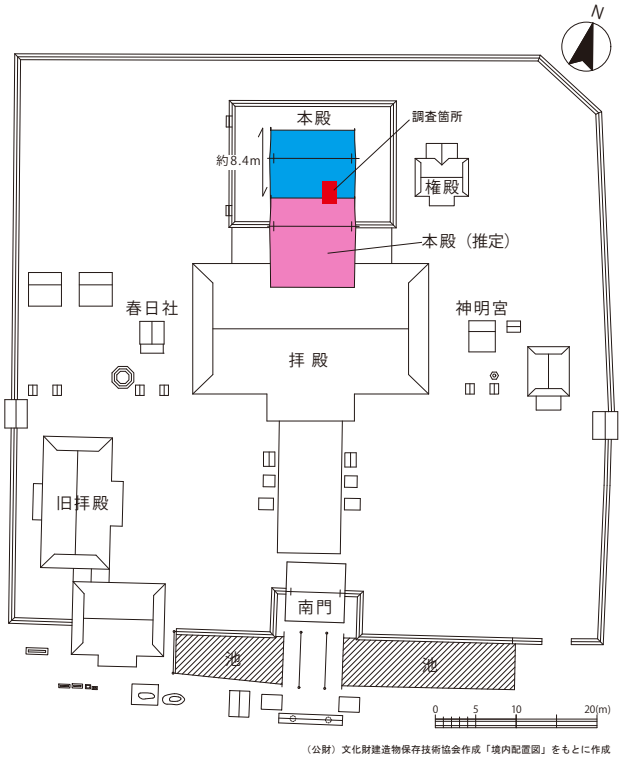
小穴は石列南側の造成跡の下から 1 基見つかりました。大きさは直径約 30 ㎝です。雨落ち痕の下から見つかったことから、この小穴は過去に本殿が建っていた場所より外側に位置すると考えられます。このことから、この小穴は本殿の周りに建てられた足場の柱跡の可能性が考えられます。

4. まとめ

今回の調査で、昭和 58 年の本殿移設前の雨落ちの構造と足場の柱跡の可能性がある小穴を確認することができました。調査結果により、昭和 58 年以前の本殿は、現在の位置より 8.4m 以上南側に位置していたことがわかりました。

修理事業は令和 12 年度まで続きますが、今後も適切な修理事業を実施できるようサポートをしていきたいと思います。

（社会教育課　出町　拓也）

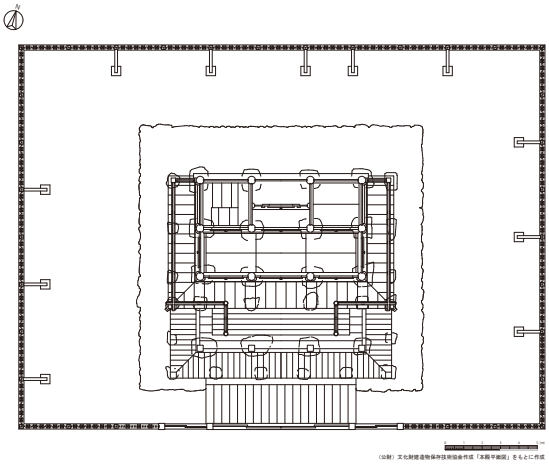


（公財）文化財建造物保存技術協会作成「境内配置図」をもとに作成

現在の本殿の位置

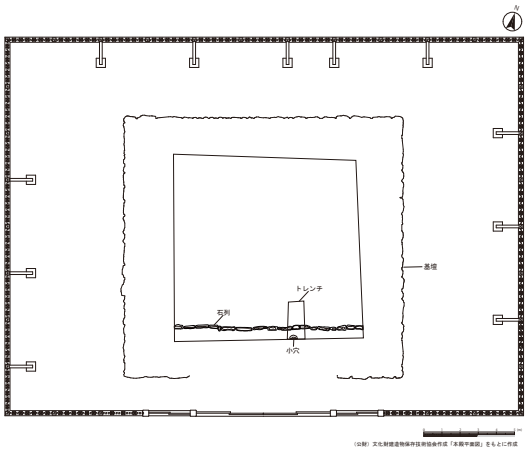
昭和 58 年以前の本殿の位置（推定）

櫛引八幡宮　境内配置図



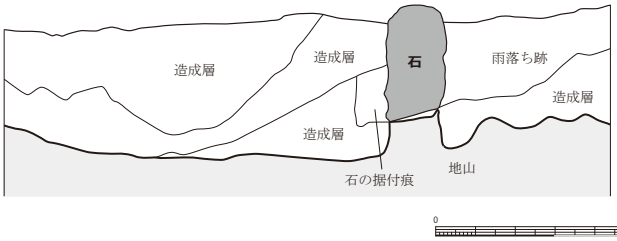
（公財）文化財建造物保存技術協会作成「本殿平面図」をもとに作成

櫛引八幡宮本殿　平面図



（公財）文化財建造物保存技術協会作成「本殿平面図」をもとに作成

遺構配置図



調査トレンチ断面図



石列全体（西から）



小穴（北から）









発掘調査作業のようす

発掘調査はたくさんの作業員さんに支えられています。

左上：法霊林遺跡　右上：細越遺跡

左下：館平遺跡　　右下：八戸城跡試掘調査のようす



今回の報告遺跡の主な時代

令和８年度　八戸市遺跡調査報告会　日程

9：00　出土品展示室開場
12：30　報告会受付開始
13：00　開会挨拶
13：05　令和８年度調査概要
13：10　調査成果報告①　法霊林遺跡
13：30　調査成果報告②　細越遺跡
13：50　休憩
14：10　調査成果報告③　館平遺跡
14：30　特別報告：櫛引八幡宮本殿下遺構の発掘調査
14：40　質疑応答
14：50　閉会挨拶

